

今年度は、小・中学校ともに文章構成の工夫について考える問題が多く出題されました。
【例】のように、文章構成の工夫が読者に与える効果や、筆者の意図などが問われています。

- 【例】○筆者はなぜ冒頭にこの文を挿入したのか
○筆者はなぜ2段落と3段落の順番を入れ替えたのか
○筆者はなぜ最初の一文を会話文にしたのか
○引用を用いた場合の効果について説明しなさい

本文に答えが書いてないため、内容の読み取りができるだけでは解けません。日頃から、相手意識、目的意識をもって「話す・聞く」「書く」「読む」等ができているかどうか問われています。



構成を工夫することによって読み手や聞き手により分かりやすく伝えることができるといふ経験や知識を、全ての学年で積み上げていくことが大切です。



- 1 疑問を提示し、読者が興味をもつて読めるようにするため。
② 自分が伝えたいことを述べ、読者の理解を助けるため。
3 具体的な例を多く挙げ、読者に納得してもらおうため。
4 自分の経験を述べ、読者の経験と比べて考えてもらおうため。

選択肢

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このような名前がついています。おうちの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニューとしておすすめします。
【星野さんの文章より】

小学校国語B 設問二の一

これは、「星野さん」が、「かみかみあえ」をおすすめする文章」の最初の部分を次のように書いた理由を考える問題です。



各学年の発達段階に応じた指導方法を工夫しましょう

【小・中学年】段落相互の関係に着目する

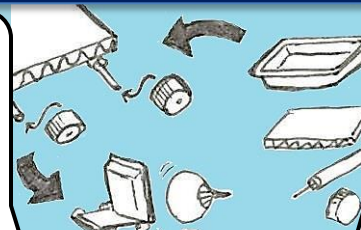
- ① 話題提起
- ② 問1
- ③ 実験
- ④ 問1の答え
- ⑤ 問2
- ⑥ 観察
- ⑦ 問2の答え
- ⑧ 問3

Bさんの説明文は、問1の段落と答えの段落の間に実験や観察の結果を入れてあるから、答えだけ書いてあるより納得できるな。



【小・低学年】順序の工夫に着目する

読み手が実際につくったり遊んだりするときと同じ順序になるように工夫されているんだね。



Aさんは「材料」→「作り方」→「遊び方」の順序で紹介しているね。

【中学校】根拠の示し方に着目する

同じテーマの意見文を比較して...

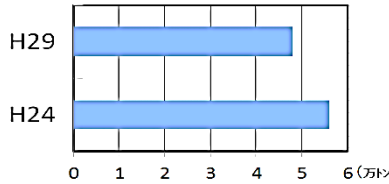
Dさんは、自分の経験を述べて、読者の経験と比べて考えてもらいたいんじゃないかな。



同じテーマの意見文でもCさんの根拠はアンケート結果、Dさんの根拠は自分の経験だね。

【小・高学年】引用文や図表等の効果に着目する

西部市の1年間のごみの量



「リサイクルをしよう」と呼びかける理由を明確にするために、ごみの分別を導く量と比較するグラフを効果的に取り入れているんだね。



構成の工夫について読み取ったり考えたりしたことについては「筆者の工夫辞典」等にまとめ、次の学年へと積みあげていくと同時に、子供たちが自分で説明文や意見文を書く際に参考にするなどの学習活動を取り入れることが大切です。